

## 2. 乳歯抜歯窩骨性治癒過程について

○三箇 正人, 木村 光孝 (九歯大・小児)

### 目 的 :

乳歯抜歯後の永久歯歯胚上部骨梁の変化を経日的に観察するために, X線写真を肉眼的観察ならびに Microphotography による X線学的観察を行い, さらに病理組織学的検索ならびに標本の一部を Rigolac 包埋し, Microradiogram により観察を行った。

### 実験材料ならびに実験方法 :

生後3カ月前後の健康な幼犬を用い, 下顎第3乳臼歯を実験部位とした。実験方法は静脈内麻酔を行い, 臨床の通法に従って抜歯した。抜歯創は開放創とした。

### 観察方法 :

術後1日, 3日, 7日, 14日, 21日, 30日目に下顎骨を摘出し, 10%中性ホルマリン液にて固定した。Fuji Softex Film (FG), CSM, 管電圧30kVp, 管電流10mA, 60秒, FFD 40cmの条件下で撮影した。骨濃度はアルミニウム階段を貼って撮影した。X線学的観察は肉眼的観察以外に, さくらマイクロフォトメーターPDS-15による光学的観察を行った。病理組織学的検索にあたっては, 5%硝酸脱灰の後, 通法に従い, セロイジン包埋後15 $\mu$ 連続切片標本を作成し, H・E染色ならびに鍍銀染色を施して鏡見した。なお, 一部の標本は60~80 $\mu$ の非脱灰切片標本を作成し, Microradiogram により観察を行ったので報告する。